

全国大学書道学会

会報

29

令和5年(2023)
2月15日発行
全国大学書道学会

副会長就任のご挨拶

副会長 神野雄二

この度副会長の大任を拝命致しました熊本大学の神野雄二と申します。微力ではございますが、本学会の発展のために尽力させて頂きたく存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

本学会の設立は、昭和三十四年で、以来六十有余年、学会活動を継承してきている歴史ある学会です。今、本学会として出来る事は何かを常に問うていく必要を感じます。

現在、コロナ禍のため多くの事業が厳しい状況下に置かれています。コロナ禍の向後も気になりますが、新しい息吹を感じさせる学会として、時代の要請に応えてさまざまな方策を考えていけたらと思います。

さて私事ですが、近年絵画制作に取り組んでいます。素材は身近な静物や、自然です。子規の言う「写生」、東洋画の根本精神「気韻生動」を目指すも、道程ははるかに遠い。芸術の力でもって、昨今の人間世界の矛盾を幾分なりとも変革できないものかと思索しています。

漱石の『草枕』に「あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊とい」との一文があります。言い得て妙、芸術の本質についているのではないのでしょうか。さすが漱石です。

書を志す若い学者の皆様は「従藍而青」の譬えの如く、後継者としての気概を持たれ、書の本質や教育の在り方を究明されんことを深く願っています。

全国大学書道学会 令和四年度(静岡)大会を終えて

静岡大学 杉崎 哲子

令和四年九月十七日、静岡大学静岡キャンパスにおいて、「全国大学書道学会、令和四年度静岡大会」が開催されました。三年ぶりの対面で再度の感染拡大が心配される状況ながら、会員四十名、準会員等九名にご参加いただきました。

人文大講義室を会場に、午前と三件、午後二件の発表がありました。感染防止対策を徹底した開放的な会場の中で活発な質疑応答が繰り広げられ、充実した時間になったことと思います。対面開催の意義を痛感しました。

記念講演は、静岡大学名誉教授の本多隆成先生に「大御所家康と書」と題して、家康の駿府大御所期の問題を中心に、家康の書状や自筆文書等の画像を投影しながらご講演いただきました。

また、九月十六日の午後から十八日の夕刻までは静岡の市街地にある「静岡市民ギャラリー」において、さらに十月四日から二十四日までは、静岡大学静岡キャンパス内の「図書館ギャラリー」において、五十七名の方の出品を得て、「令和四年度全国大学書道学会会員書作展」を開催しました。三学会の会期中は多くの一般市民の来場があり、大学の後期の授業が始まってからキャンパス内で長く開催できたので、学生達も鑑賞して楽しませていただきました。

刻一刻と状況が変化する中、年度当初は大学での開催はハイブリッドでなら何とかという状態でしたので、書展だけはと会場を確保して準備を進めていました。幸いにも案内文書発送の直前になって大学への学外者入構が許可されましたが、集団感染発生の場合の保健所の消毒責任に関する誓約書の提出が求められるなど、通常では考えられないような厳戒体制で慌ただしく当日を迎えました。更には、天候不順による大雨も心配でした。

離れた場所での書展開催に加え高低差の大きい構内の移動等でご不便をおかけし、至らぬことも多かったと思いますが、皆様のご厚情ご協力によって、無事に終えることができました。関係の皆さまに心より感謝申し上げます。

追悼

加藤達成先生 たつじょう

理事長 永由 徳夫

多年に亙り、本学会参与であられた加藤達成先生が、令和四年九月十四日、黄泉の途に就かれた。享年九十九、まさしく大往生である。

もう四十年近くも前のことになるが、私が上智大学に在学中、加藤先生は非常勤講師として出講されていた。授業で使用していた教科書が、名著『書写・書道教育原理』（藤原宏・加藤達成編）である。先生は、その後ほどなく群馬大学教授に着任されたと風の便りで耳にした。まさか己がいずれ群馬に縁のある人生を送ることになるとは想像だにしなかった時のことである。

それから随分と時は流れ、私は群馬大学に赴任することになった。そのことを先生にご報告申し上げたところ、我がことのようにお喜びくださった。平成二十五（二〇一三）年度、書道三学会が本学会を会場として開催されたが、先生は「群馬は第二の故郷」と仰って、御足元不如意の中、ご参加くださり、激励を賜った。会員書作展にはその後もご出品くださったが、大会に参加されたのは群馬大会が最後となった。本学会ホームページのアーカイブ・会報十二号にその折の集合写真がある（最前列右から五人目が加藤先生）。

加藤先生の群馬大学での知られざる業績の一つに、教職員書道会の創設が挙げられる。先生はこの会を王羲之の故事と当地を絡めて「群鷺会」と命名された（と思われる）。この教職員書道会は、現在まで継々継承されている。

先日こんなことがあった。私の兼務先、本学附属幼稚園にて、PTA企画「園長先生の習字教室」開催の折、多くの親子に交じって、一組だけおじいちゃん和孫の組み合わせがあった。孫に一生懸命教えるそのおじいちゃんになかなかの達筆なのである。聞くと、本学の旧職員で、かつて「群鷺会」で加藤先生の薫陶を受けたとの由。思わぬ所で先生を偲ぶ機会になった。

先生は事あるごとに激励やご案内のお手紙をくださった。六月に鳩居堂で開催された「第三十回 国際架橋書会選抜展」のご案内が、先生から頂戴した最後の葉書となってしまった。玉作から叱咤激励の言葉を掛けられたような気がして、斯界の発展のために微力を尽くす覚悟を新たにしたのであった。これまでに賜ったご鴻恩に深謝し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げたい。

拓本鑑賞会実施報告

相模女子大学 下田 章平

本学会編集局は会報編集に加え、「諸行事の企画」も分掌としており、令和四年度より「特別企画」を立ち上げることにしました。本企画は年に一度から二度程度定期的に行い、新規会員の獲得、他学会との差別化を図り魅力的な学会とすることを目的とします。本年度は、すぐにも実現可能な、講演会、講習会を実施することにしました。

拓本鑑賞会は淑徳大学書学文化センターにおいて実施されました。書学文化センターは長谷川良昭（一九三八―二〇一九）氏提唱のもと中濱碩堂（一九四一―二〇〇四）氏によって収集された整本を中心とする中国石刻拓本コレクションの一大コレクションがあります。当該コレクションは、特別展「顔真卿」（東京国立博物館、二〇一九）で公開され、高等学校の書道の教科書の図版や、萩信雄監修『新中国書道史年表―図説で学ぶ書の歴史―』（公益財団法人 日本習字教育財団、二〇二二）に掲載されていることとおなじみです。また、吉野大巨編、高橋蒼石図版監修『シリーズ書の古典』五張遷碑（二〇一六）の定本としても用いられています。

今回、書学文化センターのホームページ上にある「淑徳大学書学文化センター蔵中国石刻拓本目録」の中から、



会員のみなさまに鑑賞希望拓本をお知らせ頂いた上で選定し、また、本学会会員一名につき、非学会会員一名の同伴を可能にしたこともあり、三十名余りの参加者があり、大変盛況のうちに終えることができました。拓本鑑賞会の委細は早川桂央氏の寄稿文を御覧ください。

今回は、横田恭三氏を講師に迎え、「新発見の文字資料―現地レポートあれこれ―」と題する書に関する講演

会を開催する予定です。申込方法等は本会報に記してありますのでふるってご参加ください。なお、総会の資料三（八頁）では大橋修一氏を講師としてお迎えする旨が記されておりますが、事情により、講師の変更となりましたことをご報告致します。



「拓本鑑賞会」所感

相模女子大学 早川 桂 央

令和四年十一月二十六日に、淑徳大学埼玉キャンパス内の書学文化センターにて、本学会主催の「拓本鑑賞会」が行われました。この度の鑑賞会は会員一名につき、非会員一名の同伴が可能ということで、高校現場で教鞭を執られている先生方や、学生の方々なども参加され、充実した鑑賞会になったと思います。

会場は図書館の一画を貸し切り、壁面には整拓が十点、展示ケースには剪装本や瓦当などが並びました。永由徳夫理事長の挨拶の後、書学文化センター長である小川博章先生がセンターの概要と、展示拓本を一点一点解説してくださいました。書学文化センターには約六千点の収蔵品があり、また精拓を中心に蒐集しているとのこと、その量・質から蒐集には大変なご苦労を要されたことと拝察すると共に、ガラスを隔てずに、それらの拓の妙趣を直に翫賞できたことは得難い経験となりました。

展示品の中で「尉遲敬德墓誌蓋」、「晋祠銘」、「昇仙太子碑」の飛白を有する三点を同時に見ることができたのは大変興味深く、殊に「尉遲敬德墓誌蓋」の糸髪のような白線のリズムカルな抑揚と、側面に描かれる唐草紋は息をのむ美しさで目を奪われました。また「西狭頌」と「曹望喜造像記」は見事な朱拓であり、墨色とは一風違った興趣を覚えました。拓本は手習いのテキストであり、また研究のための資料であることに変わりはありませんが、一美術品として鑑賞に堪える古雅な趣があることを恥ずかしながら再認識した次第です。

また採拓年代の異なる整本の「開通褒斜道刻石」三点を拝観する機会に恵まれました。印刷物や剪装本では感じえない岩肌全体の雰囲気を一望に収められ、また墨色・拓法の違いで三者三様の表情を表し、趣を異にするという拓本の醍醐味を味わえました。伺ったところ拝観した一点は旧拓精本であり、非常に優れた拓本であるということですが、その拓本が優れている理由を裏付けるために他本と比較する重要性を考えさせられたと共に、曲りなりにもそのような機会を得られたことは非常に幸運であり、書学文化センターの有難さを強く感じました。

この度は拓本を囲んで議論風発するという、書に携わる者として至福の時を過ごすことができました。横田恭三会長、永由理事長をはじめ、ご講演下さいました小川先生、企画運営にご尽力下さいました諸先生方に厚く御礼申し上げます。今後ともこのような学習の機会を賜りたく、次回の企画を心待ちにしております。

「書に関する講演会」の御案内

本年度の第二弾の「特別企画」として「書に関する講演会」を開催します。本学会会員一名につき、非学会会員一名の同伴も可能ですので、ふるってご参加ください。本学会会員、非学会会員のいずれも**参加費無料**です（ただし、非学会会員で十一月の「拓本鑑賞会」に続き、本企画に参加される場合は、受付時に「入会申込書」をご提出願います。令和五年度より、会員として取り扱わせていただきます）。なお、一般参加者（非学会会員）が本講演の参加を希望する場合は、事前に本学会にご入会頂くか、本学会会員の同伴（ただし、一名限り）による必要がありますのでご注意ください。

また、会員の所属先の大学生・高校生の聴講も認めますので、ご案内ください。ただし、申込締切日までに企画担当者（下記「お問い合わせ先」参照）宛に参加者名簿（書式任意、メール添付）を提出した上で、当日、会員が責任をもって引率される場合に限り（上記、非学会会員一名同伴の項は適用外とします）。

日時 二〇二三年三月十一日（土）
（十五時～十七時）

場所 相模女子大学 十一号館一階 一一一五教室

内容 相模女子大学において、講師に横田恭三先生（跡見学園女子大学教授）をお迎えし、「書に関する講演会」を開催します。一 秦公一号大墓出土石磬刻字 二 里耶秦牘 三 亀山漢墓石刻銘 四 何君閣道摩崖 五 郭虚己墓誌銘（顔真卿）の五種について、現地の様子と書道史的価値について、関連する拓本を展示し、解説する。

参加申込 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を予め把握しておきたいと思えます。下記

注意事項

フォーラムより二〇二三年二月二十四日（金）までに事前申し込みをお願いします。なお、**本学会会員一名につき、非学会会員一名の参加も可能です**。非学会会員を同伴する場合は、その旨下記フォーラムに記してください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者はマスクの着用、入館前のアルコール消毒をお願いします。また、当日三七・五度以上の発熱や、咳を伴う場合は出席を御遠慮ください。

【書に関する講演会参加登録用Googleフォーム】

（下記のQRコードもご利用ください）

<https://forms.gle/aU5a7TnkQ7j3bhg9>

※フォーラムでのお申し込みが難しい場合、左記のお問い合わせ先にメールか、葉書にて、次の情報をお送りください。

・会員か非会員か、ご氏名（漢字とひらがな）、ご所属、メールアドレス、当日連絡がとれる電話番号、非学会会員が参加の場合は、その方の名前（漢字とひらがな）とご所属をお願いします。

【お問い合わせ先】

二五二〇三八三
神奈川県相模原市南区文京二一一
相模女子大学十号館
全国大学書道学会編集局 下田 章平 宛
s-shimoda@isc.sagami-wu.ac.jp

アクセス 小田急線相模大野駅より、徒歩

（約十～十五分）でお越しください。

※自家用車でのお越しは御遠慮ください。

次回予定

次回は本学会設立六十五周年記念の研修旅行を企画しております。改めてご案内します。



参加登録用 Google フォーム



会場案内図

全国大学書道学会 令和4（2022）年度 静岡大会 次第

開催日 令和4（2022）年9月17日（土）
会場 静岡大学教育学部
開催大学 静岡大学

《総会》

●9：00 受付（参加費3,000円＊準会員（大学院生）2,000円）

《開会式・総会》

●9：30～10：00 開会式・総会（人文学部大講義室）

1. 開会のことば	
2. 開催大学あいさつ	静岡大学教育学部 副学部長 村山 功 先生
3. 理事長あいさつ	永由 徳夫（群馬大学）
＊ 議長選出	谷口 邦彦（安田女子大学）
4. 議事（審議事項）	
1）令和3度事業報告	→ 資料1 杉山 勇人（鎌倉女子大学）
2）令和3年度決算報告	→ 資料2 尾川 明穂（筑波大学）
3）令和3年度監査報告	山口 恭子（法政大学）
4）令和4年度事業計画（案）	→ 資料3 杉山 勇人（鎌倉女子大学）
5）令和4年度予算（案）	→ 資料4 尾川 明穂（筑波大学）
6）その他	
5. 報告事項	
1）学会誌・会報の発行について	角田 勝久（新潟大学） 下田 章平（相模女子大学）
2）新入会員紹介	
3）次年度開催大学あいさつ	
4）その他	事務局
6. 閉会のことば	

《研究発表》

- 10：10～10：40 **研究発表①** 司会：小川 博章（淑徳大学）
女性墓誌銘の用語の特徴と書風に関する研究
—北魏を起点とする作銘方法伝承の解明を中心として—
愛媛大学教授 東 賢司
- 10：45～11：15 **研究発表②** 司会：佐々木 佑記（五島美術館）
『定家卿筆道』の著述内容とその意義
総合研究大学院大学博士後期課程 福原 真子
- 11：20～11：50 **研究発表③** 司会：尾川 明穂（筑波大学）
『高野切古今和歌集』と『粘葉本和漢朗詠集』における仮名について
—〈无〉の仮名を通じて—
関西大学大学院博士課程後期課程 松本 美恵
- 12：50～13：20 **研究発表④** 司会：下田 章平（相模女子大学）
日本書道史における「和様」の多義性の淵源 —近世書論の比較検討を通して—
東京藝術大学助教 柳田さやか

- 13:25～13:55 研究発表⑤ 司会：杉山 勇人（鎌倉女子大学）
近世の学書における「撥鐙法」の受容と展開

群馬大学教授 永由 徳夫

《大会記念講演》

- 14:05～15:25 大会記念講演（会場：人文学部大講義室） 司会：草津祐介（東京学芸大学）
演 題：大御所家康と書
講 師：本多 隆成 先生（静岡大学名誉教授）

《会員書作展》

- 会 期 I 令和4年9月16日（金）～9月18日（日）10:00～17:30（初日は13:00～）
会 場 I 静岡市民ギャラリー第3室
会 期 II 令和4年10月4日（火）～10月24日（月）9:00～17:00（土日は休館）
会 場 II 静岡大学図書館ギャラリー

《理事会》

日 時 9月11日（日）17:00～18:00 【オンライン開催】

《総会資料》

資料1

令和3（2021）年度 事業報告 → 承認

- （令和3年）4月1日……書道三学会 令和3年度香川大会 開催方針案 公開
6月1日……『大学書道研究』第14号、会報（香川大会第1次案内）等、発送
6月30日……書道三学会 令和3年度香川大会 開催方針【決定版】公開
7月18日……常任理事会（オンライン）（今年度学会運営について）
8月16日……三学会合同役員会（オンライン）
8月18日……書道三学会 令和3年度香川大会 開催方針【最終確定版】公開
（令和3年度香川大会はオンライン方式に変更とする）
9月6日～……理事会（メール・書面審議、意見等の締め切り9月15日まで）
9月10日……学会誌論文投稿申込締切日
9月17日……常任理事会（オンライン）（香川大会（オンライン）について）
9月19日～20日……書道三学会・香川大会（オンライン）
9月18日～10月16日……全国大学書道学会会員書作展（香川大学博物館）
11月10日……『大学書道研究』投稿論文受付締切日、学会誌投稿論文査読
12月27日……常任理事会（査読結果確認及び学会誌の発行について）
（令和4年）1月～3月……『大学書道研究』第15号編集
3月14日……三学会合同役員会（オンライン）（令和4年度静岡大会について）

資料2

令和3(2021)年度会計報告(2021.04.01～2022.03.31) → 承認

A：収入の部	
1 2020年度繰越金	7,461,653円
2 2021年度会費(216口)	1,442,000円
3 『書の古典と理論』印税	0円
4 雑収入	
香川大会運営補助費残金	19,180円
会員書作展協賛費残金	23,500円
預金利子	9円
合 計	8,946,342円

B：支出の部	
1 大会運営補助費	120,000円
2 理事会費(会議費・交通費)	0円
3 印刷費(学会誌14号257,400円、会報26号64,337円、 封筒1,500枚36,300円、会報27号83,714円)	441,751円
4 通信費	63,520円
5 事務費(消耗品費、会費払込手数料35,590円等)	56,369円
6 東洋学・アジア研究連絡協議会費	2,000円
7 ホームページ保守・更新費	73,480円
8 会員書作展作品集会員頒布	250,000円
9 雑 費	0円
合 計	1,007,120円

●A－B(8,946,342円－1,007,120円)＝ **7,939,222円** (前年度比＋477,569円)

上記の通り報告いたします。
以上相違ありません。

令和4年6月20日 会計局 尾川 明穂 ㊟
令和4年6月20日 監 査 中村 史朗 ㊟
同 山口 恭子 ㊟

資料3

令和4(2022)年度事業計画(案) → 承認

- (令和4年) 5月1日………三学会合同役員会(静岡大会開催方針について)
5月29日………理事会(オンライン)
6月1日………『大学書道研究』第15号、会報(静岡大会1次案内)等、発送
7月5日………全国大学書道学会入会案内送付
7月14日………常任理事会(オンライン)(今年度学会運営について)
7月16日………三学会合同役員会(静岡大会開催方針決定)
8月22日………令和4年度静岡大会 開催方針案【最終確定版】公開(大会対面開催)
9月10日………学会誌論文投稿申込締切日
9月11日………理事会(オンライン)
9月16日～18日………書道三学会・静岡大会
9月16日～18日………会員書作展：会期Ⅰ(静岡市民ギャラリー)
10月4日～10月24日………会員書作展：会期Ⅱ(静岡大学図書館ギャラリー)
11月10日………『大学書道研究』投稿論文受付締切日、学会誌投稿論文査読(11月下旬～)
11月26日………特別企画「拓本鑑賞会」(淑徳大学書学文化センター)
12月28日………常任理事会(オンライン)(査読結果確認及び学会誌の発行について)
- (令和5年) 1月～3月………『大学書道研究』編集
3月11日………書に関する講演会(泰斗に訊く！ 第1弾)
3月中旬………常任理事会/三学会合同役員会(本年度学会運営について、令和5年度大会について)

(特別企画の立ち上げに関して)

1 2022年度の企画概要

1-1 拓本鑑賞会

日 時：2022年11月26日(土) 13:00～

場 所：淑徳大学書学文化センター(図書館2階)

人 数：30名を予定

※無料スクールバス時刻表を利用予定。

※感染予防については事前周知する。

1-2 書に関する講演会(泰斗に訊く！ 第1弾)

日 時：2023年3月11日(土) 15:00～

場 所：相模女子大学(予定)

講 師：大橋修一先生(埼玉大学名誉教授)

人 数：60名を予定

※感染予防については事前周知する。

2 予算措置

・2022年度予算に「諸行事の開催・準備費等」として1企画15万円、計30万円を計上する。

3 学会創立65周年特別企画

・国内(国外)研修旅行、書籍(手本)の刊行などを計画する予定である。

資料4

令和4(2022)年度予算(案)(2022.04.01～2023.03.31) → 承認

A: 収入の部

1 2021年度繰越金	7,939,222円
2 2022年度会費(会員210口、準会員10口、計220口)	1,310,000円
3 『書の古典と理論』印税	250,000円
4 雑収入(預金利子等)	5円
合 計	9,499,227円

B: 支出の部

1 静岡大会運営補助費・謝金	170,000円
2 理事会費(会議費・交通費)	800,000円
3 印刷費(学会誌15号、会報28・29号)	600,000円
4 通信費	100,000円
5 事務費(消耗品費・振替手数料)	150,000円
6 東洋学・アジア研究連絡協議会費	2,000円
7 ホームページ更新費	73,480円
8 諸行事の開催・準備費等	300,000円
9 予備費	7,303,747円
合 計	9,499,227円

会員の異動(新入会員・準会員/退会・退会申出者) ※2021.01～2022.12の会員の異動

《会 員》	真弓 幹子	香蘭女学校 / 推薦者：永由 徳夫
	染谷 洪太	船橋市東図書館 / 推薦者：染谷 慶子
	雨宮 千春	芸術新聞社 / 推薦者：小林 恵
	渡邊 周一	四国大学 土井 伸也 北海道教育大学岩見沢校
	井田 明宏	安田女子大学 中島 恵美子 専修大学
	山中 草叶	札幌国際大学 三田 広美 武蔵野大学
	橋本 麻希	東京都立大学 劉 作勝 愛知学院大学
	小坂 克子	愛知淑徳大学 正寶 直美 佐賀大学
	小野寺 東史	宮城教育大学
	高嶋 良子	四国大学大学院 / 推薦者：太田 剛
《準 会 員》	王 国強	宇都宮大学地域創生科学研究科博士課程 / 推薦者：永由徳夫
《退会・退会申出者》	青木 悟	折川 司 小竹 光夫 鈴木かおる
	玉澤 友基	豊田 宗児 林田俊一郎

二〇二二年度 全国大学書道学会 会員・準会員一覧

相川 匡也	栃木県	太田 剛	徳島県	四国大学	北畠 康成	大阪府	精華高等学校	杉浦 妙子	東京都	二松学舎大学
青木 馨子	東京都	太田 知美	北海道	北海道札幌平岸高等学校	衣川 彰人	愛知県	愛知教育大学	杉崎 哲子	静岡県	静岡大学
青木 辰樹	埼玉県	大野 幸子	埼玉県	桜蔭中学高等学校	木村 博昭	愛知県	愛知教育大学	杉山 勇人	神奈川県	鎌倉女子大学
青戸 貴子	鳥取県	大橋 修一	埼玉県	川口短期大学	木村 亮太	群馬県	前橋市立箱田中学校	鈴木 清	香川県	
青山 浩之	神奈川県	大森 アユミ	福岡県	長崎大学	金 貴粉	東京都	国立ハンセン病資料館	鈴木 慶子	長崎県	長崎大学
秋山 恵子	長野県	岡崎 忍	神奈川県	相模女子大学中部	草津 祐介	東京都	東京学芸大学	砂川 さつき	福岡県	
浅井 陽子	埼玉県	岡島 正秀	神奈川県	岐阜女子大学	久保田 陽子	岩手県	岩手大学	住川 英明	埼玉県	早稲田大学大学院博士課程
浅野 多鶴	岐阜県	岡田 直樹	大阪府	京都教育大学	熊坂 尚史	東京都	巣鴨中・高等学校	関 俊史	埼玉県	鹿兒島県 鹿兒島大学
網代 菜摘	神奈川県	岡野屋 宏一	東京都	東京外国語大学	見城 正訓	静岡県	静岡大学	瀬簡 寛之	埼玉県	千葉大学教育学部附属小学校
足立 敦子	茨城県	岡村 浩	新潟県	新潟大学	古木 誠彦	福岡県	九州女子大学	染谷 慶子	埼玉県	千葉大学 船橋市東図書館
雨宮 千春	東京都	尾川 明穂	茨城県	筑波大学	小坂 克子	愛知県	愛知淑徳大学	染谷 洪太	千葉県	千葉県 大東文化大学
荒金 一浩	東京都	小川 崇	埼玉県	県立坂戸西高等学校	小竹 正高	岡山県	岡山明誠学院高等学校	高木 厚人	千葉県	大東文化大学
荒金 治	大分県	小川 貴史	新潟県	県立新潟東高等学校	小西 憲一	香川県	香川大学	高嶋 良子	香川県	四国大学大学院
荒金 信治	大分県	小川 博章	東京都	淑徳大学	小林 拓也	神奈川県	大妻中野中・高等学校	高橋 克匡	岩手県	
安生 成美	茨城県	奥 光真	茨城県	県立石下紫峰高等学校	小林 比出代	長野県	信州大学	鷹啄 知美	埼玉県	県立深谷第一高等学校
五十嵐 もこ	神奈川県	押木 秀樹	新潟県	上越教育大学	小林 恵	神奈川県	青島社	高橋 美穂子	神奈川県	
五十嵐 康子	神奈川県	押野 加奈	東京都	東京学芸大学附属国際中等養学校	小林 祐太	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	高柳 幸雄	東京都	二松学舎大学
池田 孝一	千葉県	落石 園美	東京都	宮城教育大学	駒瀬 公哉	群馬県	県立岐阜城北高等学校	滝口 雅弘	香川県	
池田 利廣	奈良県	小野寺 東史	宮城県	相模女子大学名誉教授	権田 瞬一	埼玉県	大東文化大学書道研究所	武井 彩香	群馬県	上武大学
井澤 秀彦	東京都	柿木原 くみ	東京都	出光美術館	齋木 久美	千葉県	茨城大学	竹嶋 秀聡	三重県	県立亀山高等学校
石橋 健	埼玉県	笠嶋 忠幸	東京都	出光美術館	齋藤 克美	埼玉県	大東文化大学	竹之内 裕章	佐賀県	佐賀大学名誉教授
石橋 隆文	東京都	加藤 泰弘	東京都	東京学芸大学	齋藤 颯	群馬県	前橋市教育委員会	立石 充	徳島県	徳島県立文学書道館
伊豆 名皓美	新潟県	加藤 祐司	埼玉県	東京学芸大学名誉教授	齋藤 英男	埼玉県	武蔵野学院大学	田中 有紗	埼玉県	東京学芸大学大学院
井田 明宏	広島県	香取 潤哉	千葉県	茨城県立那珂湊高等学校	坂井 昭彦	東京都	文部科学省初等中等局	田中 春菜	埼玉県	大東文化大学大学院博士課程
板橋 聡美	東京都	金子 章乃	東京都	出光美術館	佐々木 佑記	東京都	五島美術館	田中 秀征	徳島県	徳島県立小松島高等学校
伊藤 亜美	埼玉県	金子 馨	神奈川県	出光美術館	佐藤 有紗	千葉県	千葉県立京葉高等学校	谷口 邦彦	北海道	安田女子大学
伊藤 彩里沙	群馬県	亀田 絵里香	埼玉県	実践女子大学	塩田 智代美	広島県	広島大学	谷橋 由花	北海道	
井上 悠	埼玉県	萱 のり子	東京都	奈良国立大学機構奈良教育大学	渋谷 美登里	静岡県	静岡大学	田ノ岡 大雄	徳島県	四国大学
今井 京子	群馬県	萱 晋	東京都	NHK学園高等学校	清水 文博	神奈川県	相模女子大学	田畑 理恵	東京都	都留文科大学
今井 裕登	群馬県	川合 広太郎	埼玉県	東洋大学	下田 章平	神奈川県	山梨大学	田村 南海子	埼玉県	文部科学省
岩原 優花	群馬県	川内 佑毅	東京都	帝京大学	下田 真奈美	宮城県	宮城教育大学	淡海書道文化専門学校	滋賀県	
内門 亮子	東京都	河内 由弥	神奈川県	大東文化大学	霜触 智会	群馬県	大泉町立南小学校	出野 文莉	京都府	佛教大学大学院
内山 裕美	東京都	河島 利治	東京都	大東文化大学	正實 直美	佐賀県	佐賀大学	塚本 宏	奈良県	大阪教育大学
浦有希	東京都	川原 淳	東京都	千葉日本大学第一中学・高等学校	白鳥 ゆう子	神奈川県	立正大学	辻 尚子	徳島県	四国大学
浦野 俊則	埼玉県	神戸 雅史	東京都	県立広島高等学校	城間 圭太	沖縄県	熊本大学名誉教授	津田 好一	埼玉県	新潟大学
王 国強	栃木県	岸野 大	広島県		神野 雄二	東京都	土井 伸也	角田 勝久	新潟県	新潟大学
大島 史子	群馬県				水田 至摩子	埼玉県	岡山記念館	津村 幸恵	千葉県	東洋大学

徳泉 さち	東京都	日本大学
利光 亜希子	福岡県	筑紫女学園高等学校
飛田 博昭	茨城県	県立太田第一高等学校
登丸 昌子	神奈川県	横浜国立大学附属横浜小学校
豊口 和士	神奈川県	文教大学
島本 純平	京都府	府立東宇治高等学校
仲川 恭司	埼玉県	専修大学名誉教授
中嶋 久美	青森県	弘前大学
中島 恵美子	茨城県	専修大学
中根 安治	愛知県	岐阜女子大学
中村 薫	東京都	大東文化大学人文科学研究所
中村 史朗	京都府	滋賀大学
長尾 秀則	京都府	佛教大学
長野 秀章	東京都	東京学芸大学名誉教授
永由 徳夫	東京都	群馬大学
名部 勝美	滋賀県	淡海書道文化専門学校
浪江 加奈子	岐阜県	岐阜女子大学
浪田 美智枝	北海道	都立竹早高等学校
成瀬 靖子	東京都	北海道教育大学旭川校
西川 竜矢	北海道	攻玉社中・高等学校
西田 健	東京都	高野山大学
仁田 幸一郎	東京都	岐阜女子大学
野田 悟	大阪府	安田女子大学
野中 浩俊	新潟県	東京学芸大学
信廣 友江	広島県	東京学芸大学
橋本 栄一	埼玉県	東京学芸大学
橋本 麻希	神奈川県	東京学芸大学
蓮見 行廣	東京都	東京学芸大学
長谷川 千栄子	神奈川県	東京学芸大学
服部 一啓	福岡県	福岡教育大学
濱田 瑞美	神奈川県	横浜美術大学
濱田 尚文	千葉県	県立市原高等学校
早川 桂央	神奈川県	相模女子大学
東 賢司	愛媛県	愛媛大学
東野 敏夫	大阪府	大阪樟蔭女子大学
樋口 咲子	群馬県	千葉大学
備前 徹	東京都	専修大学
平田 光彦	京都府	武庫川女子大学
廣瀬 裕之	東京都	武蔵野大学
福井 淳哉	東京都	帝京大学
福島 一浩	東京都	二松学舎大学
福原 真子	東京都	総合研究大学院大学博士後課程
藤井 俊太郎	群馬県	共愛学園高等学校
藤森 大雅	埼玉県	大東文化大学書道研究所
本多 和宏	千葉県	県立柏井高等学校
本田 容子	神奈川県	鎌倉女子大学
前川 知里	東京都	大東文化大学大学院
牧野 浩二	大阪府	四天王寺大学
増田 尚子	千葉県	税務大学校
松浦 貢	埼玉県	専修大学
松尾 治	埼玉県	専修大学
松原 直也	岐阜県	県立岐阜農林高等学校
松本 貴子	千葉県	大東文化大学
松本 仁志	広島県	広島大学
松本 美恵	兵庫県	関西大学大学院
真弓 幹子	東京都	香蘭女学校
丸山 果織	兵庫県	神戸松蔭女子学院大学
三浦 拓真	愛知県	東京学芸大学連合学校教育研究所
水木 亮子	富山県	県立となみ野高等学校
三田 広美	東京都	武蔵野大学
三井 忠大	東京都	陽山美術館
宮澤 正明	山梨県	山梨大学名誉教授
森 哲之	広島県	広島文教大学
森岡 隆	茨城県	筑波大学名誉教授
森上 洋光	徳島県	四国大学
森下 弘	広島県	熊本県立大学
森山 秀吉	茨城県	茨城大学
安 裕明	岡山県	県立玉島高等学校
安原 亜悠	神奈川県	東京藝術大学
柳田 さやか	神奈川県	静岡大学
矢原 徳子	広島県	大阪樟蔭女子大学
山内 常正	静岡県	法政大学
八巻 敏幸	東京都	都立新宿高等学校
山口 恭子	東京都	日本大学
山崎 真由美	東京都	福井大学
山下 由季	東京都	札幌国際大学
山中 典生	北海道	筆の里工房
山本 草叶	北海道	島根県
山本 彩	広島県	県立松江農林高等学校
山本 興	島根県	

山元 宣宏	宮崎県	宮崎大学
山本 まり子	神奈川県	鶴見大学
山本 祐司	愛知県	中部大学
湯川 恵子	千葉県	日本放送協会学園
横倉 佳男	神奈川県	国学院大学
横田 恭三	埼玉県	跡見学園女子大学
横山 佳通	静岡県	名古屋芸術大学
吉澤 義和	埼玉県	元文教大学
吉田 真	東京都	日本パソナ能力検定委員会
劉 作勝	愛知県	愛知学院大学
和田 圭壮	福岡県	福岡教育大学
渡瀬 仁	静岡県	四国大学
渡邊 周一	徳島県	

総会員数 二四七名

(二〇二三年十二月末日現在)

- ※ 氏名を五十音順に配列し、居住地の都道府県名、所属を記しました。所属について、変更の申し出がないものについては昨年度の一覧に掲載したものをそのまま掲載しています。
- ※ 氏名・都道府県・所属に変更あるいは誤りがある場合、記載漏れがある場合は、事務局まで文書・メールにてお知らせください。
- ※ 現在、大会案内・学会誌・会報等はメール便で送付しています。住所変更・転居の場合は新住所・転居先を速やかに事務局宛に文書でお知らせください。正確・迅速な発送を期すために皆様のご協力をお願いいたします。

年会費納入のお願い

本年度年会費が未納の方は、2月末日までに納入くださるよう、お願いいたします。

〈昨年度まで完納されている会員〉

* 年会費は、会員6,000円、準会員(大学院生)5,000円です。

準会員は、大学院修了後、会員資格として取り扱います。

〈昨年度までに未納分がある会員〉

* 未納分のある場合は、その旨を2022年6月にお届けしました「払込取扱票」に記載しておりますので、本年度分と併せて納入ください。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈全国大学書道学会 会計局〉 〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学芸術系 尾川研究室内

TEL/FAX 029-853-2717

E-mail ogawa@geijutsu.tsukuba.ac.jp

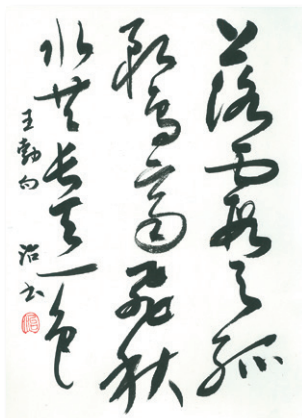
令和四年度 全国大学書道学会会員書作展

会期Ⅰ 令和四年九月十六日(金)～九月十八日(日)
会場Ⅰ 静岡市民ギャラリー第三室
会期Ⅱ 令和四年十月四日(火)～十月二十四日(月)
会場Ⅱ 静岡大学図書館ギャラリー

1 和氣勳 青山浩之(横浜国立大学)



2 藤王閣序一句 荒金治(北京語言大学)



3 小さないのち 荒金信治(別府大学名誉教授)



4 遂 五十嵐ももこ(都立世田谷総合高校)



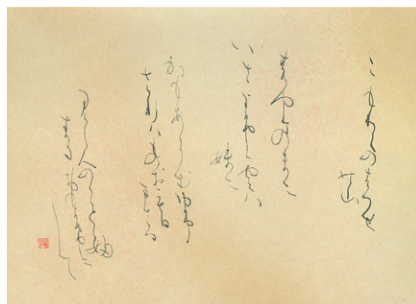
5 種田山頭火の句 石井健(東京学芸大学)



6 羅振玉句 井田明宏(安田女子大学)



7 こもりくの… 内山裕美(早稲田大学)



9 秋山 大野幸子(桜蔭大学中学高等学校)



8 金文「静」(ろうけつ書) 太田剛(四国大学)



10 天遊 岡野屋宏一(東京外国語大学)



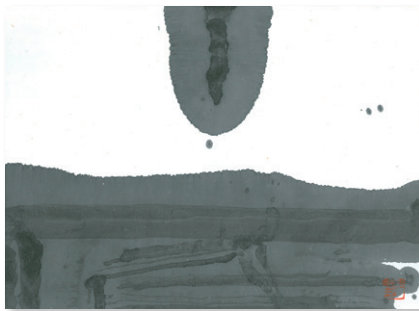
11 金石寿 小川博章（淑徳大学）



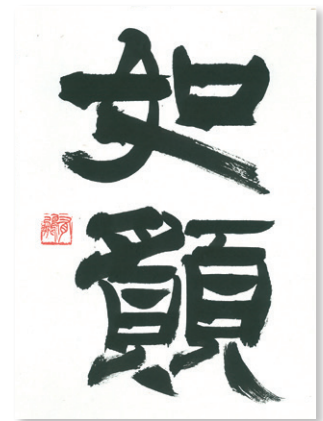
12 木葉動秋聲 押野加奈（東京学芸大学附属国際中等教育学校）



13 底 加藤泰弘（東京学芸大学）



14 如願 亀田絵里香（日本大学）



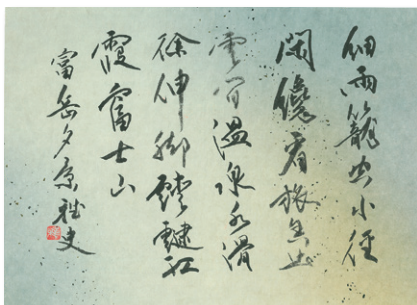
15 富士のめぐみ 萱のり子（奈良教育大学）



16 風塵僕々 川内佑毅（東洋大学）



17 富岳夕景 神戸雅史（千葉日本大学第一中学・高等学校）



18 なにひとか 熊坂尚史（巣鴨中・高等学校）



19 三字句 見城正訓（静岡大学）



20 劉熙載句 小西憲一（香川大学）





23 源氏物語絵巻 (柏木二)
渋谷みどり (静岡県大学書道学会)



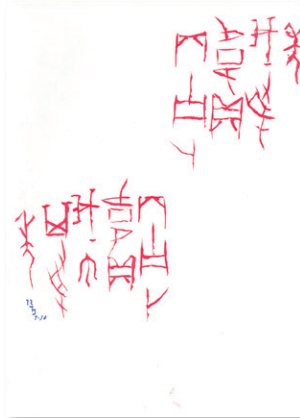
22 晝浪の句
齋木久美 (茨城大学)



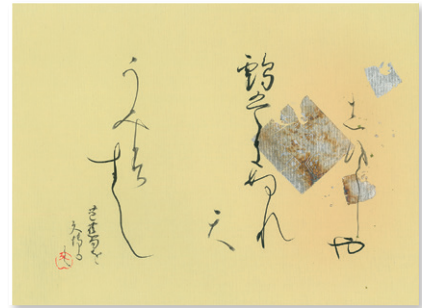
21 「至楽」 小林比出代 (信州大学)



26 お陰様 杉崎哲子 (静岡大学)



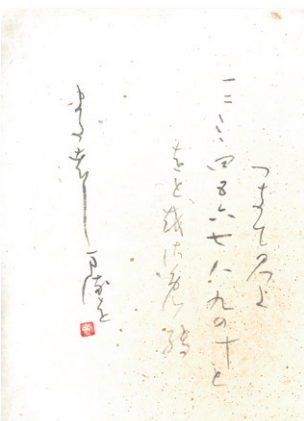
25 神線作品2022-1
神野雄二 (熊本大学名誉教授)



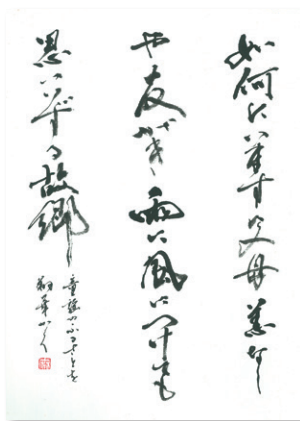
24 しほごしや
清水文博 (山梨大学)



27 投企
杉山勇人 (鎌倉女子大学)



30 良寛の歌 染谷慶子 (書文化研究会)



29 童謡「ふるさと」
芹澤麻美子 (千葉大学教育学部附属小学校)



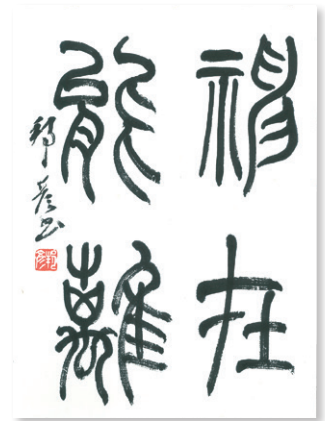
28 「瀨筒寛之」
瀨筒寛之 (鹿児島大学)



33 好古餘韻 角田勝久 (新潟大学)



32 怡然 津田好一 (二松學舎大学)



31 神在能離 谷口邦彦 (安田女子大学)



35 壁中蔵書 徳泉さち (日本大学)



36 地球の呼吸 豊口和士 (文教大学)



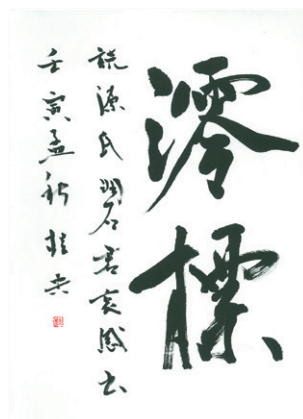
34 蘇光 出野文莉 (大阪教育大学)



38 「顔」 野中浩俊 (岐阜女子大学)



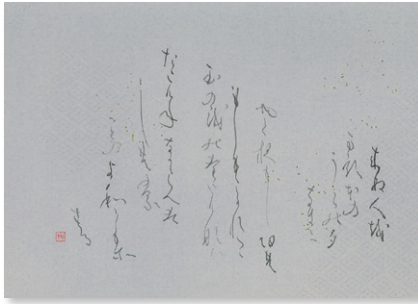
39 修 服部一啓 (福岡教育大学)



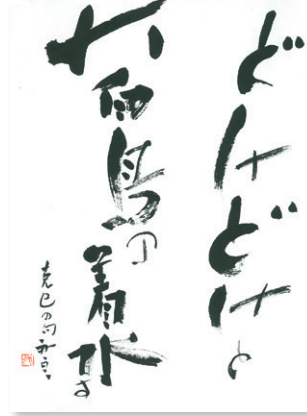
40 滯標 早川桂央 (相模女子大学)



37 趣舎 永由徳夫 (群馬大学)



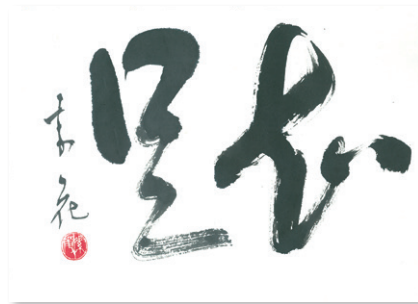
43 百人一首より
福原真子（総合研究大学院）



42 行方克巳の句「大白鳥」
廣瀬裕之（武蔵野大学）



41 終わりと始まり
樋口咲子（千葉大学）



46 知足 増田尚子
（東京大学教育学部附属中等教育学校）



45 寧 本田容子（鎌倉女子大学）



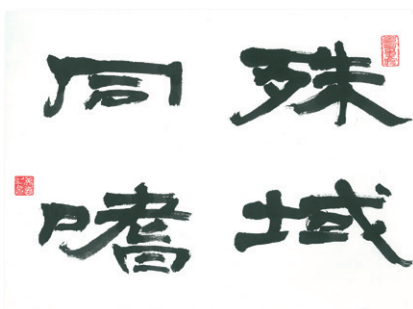
44 飛遜 藤森大雅（大東文化大学・書道研究所）



48 古今和歌集の歌より
松原直也（岐阜県立岐阜農林高等学校）



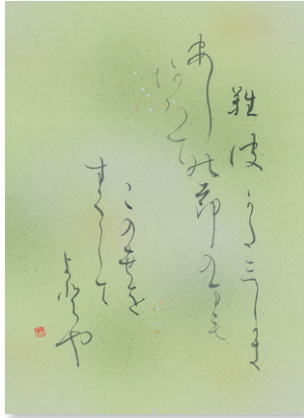
47 雲騰 松尾治（専修大学）



50 殊域同嗜
松本美恵（関西大学大学院）



49 題富士山圖慶人壽（皆川淇園）
松本貴子（大東文化大学）



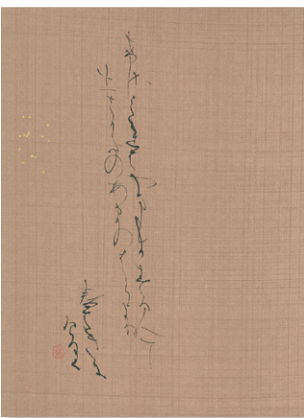
53 伊勢の歌 柳田さやか (東京藝術大学)



52 健 森哲之 (広島文教大学)



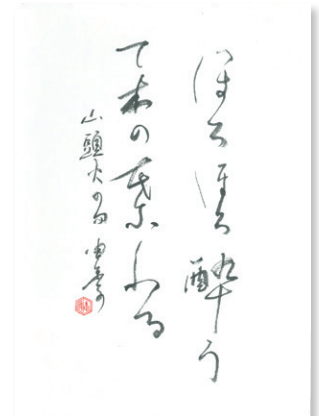
51 恵順 森上洋光 (四国大学)



56 春霞 湯川恵子 (NHK学園)



55 一步 山元宣宏 (宮崎大学)



54 山頭火の句 山下由季 (日本大学)

静岡市民ギャラリー



57 春回大地 (春は大地を回る) 横田恭三 (跡見学園女子大学)

静岡大学図書館ギャラリー

